

開催報告

平成22年度 青少年問題を考える地域懇話会

- 旭川市（平成23年1月28日（金）旭川市ときわ市民ホール多目的ホール）
- 千歳市（平成23年2月23日（水）千歳市総合福祉センター）

青少年問題について、有識者と地域の活動指導者が意見交換等を行う「青少年問題を考える地域懇話会」を旭川市、千歳市の2箇所で、それぞれの青少年育成市民会議や地区青少年育成運動推進指導員会と共催して開催しました。

この地域懇話会は、青少年育成の地域での取組が重要であることから、これまで有識者からの提言を取りまとめるため開催していた「青少年問題を考える懇話会」を見直し、本年度からは、有識者が地域に出向き、地域の活動指導者と直に課題やその解決方策などについて協議することとしたもので、地域の指導者からの発表を基に有識者からの助言や一般参加者からの意見を交えた活発な意見交換が行われました。

【旭川市】 テーマ 「地域の子どもは、地域で守り育てよう」

- 共催 旭川市青少年育成部連絡協議会
上川管内青少年育成運動推進指導員会
- 提言者 北翔大学副学長 山谷敬三郎
(地独) 北海道総合研究機構主査 村松 博文
- 発表者 旭川市青少年相談室指導員 長井 俊幸
旭川市青少年育成部連絡協議会会長 中嶋 秀雄
旭川市PTA連合会会長 小山 英明
- コーディネーター 上川教育局社会教育指導班主査 館合 伸哉
(敬称略)



～概要～

発表者からは、①子どもの参加人数の減少や子ども会活動の低下、②PTAなどの活動のマンネリ化、③関係団体との連携不足、④役員の担い手がいなく、皆で子どもを育てる意識の欠如、などの課題が取り上げられた。

これに対して提言者からは、①活動の中味については、必要性について住民の理解が得られているか、活動の意味があるのかということについて常に見直しながら持続可能な活動とするための工夫を行うことが重要であること。そのためには、理解を得るためのPRのほか、現在の活動の効果・成果を目に見える形で示すことが必要である。例えば、清掃活動では、ゴミのあった場所や量をその都度記録するなどして清掃活動の評価を行う。また、仕事や散歩、買い物などの行き帰りに子どもたちのいるところを回ってみる「回り道運動」では、子どもたちにアンケート調査をし、危険な目にあった量が減ったなどの成果を見せていくことである。



②子どもを守ることは、子どもの親から高齢者まで多世代が活動にかかわることができ、そこから人と人とつながり、地域のコミュニティを再生することができる、などの提言があった。

さらに、地域の連携体制では、住民、町内会、学校、PTAなどのほか、例えば、地区の社協指導主事や社会福祉協議会など第三者的な立場の者にコーディネーターの役割を担ってもらうことがマンネリ化を防ぎ、課題を乗り越えられ、持続的な活動を可能にするとの提言があった。

この他、一般参加者からも多数の意見等が出され、熱心な意見交換が行われた。

【千歳市】 テーマ 「家庭、学校及び地域の連携のために」

- 共催 千歳市青少年育成市民会議
石狩地区青少年育成運動推進指導員会
- 提言者 北翔大学副学長 山谷敬三郎
- 発表者 千歳市青少年育成市民会議会長 内村 喜郎
千歳市青少年指導センター専門指導員 高浜 正行
(財) 千歳青少年教育財団教育係 星 公子
- コーディネーター 石狩教育局社会教育指導班主査 渡邊 琢真
(敬称略)



～概要～

発表者からは、①行事や活動がマンネリ化しており、時代の変化に対応した取組や各種団体間の連携をどう図るか、②子どもたちの問題行動は家庭の問題に起因することが多く、家庭の教育力を高める取組をどのように推進していくか、③部活や少年団活動が忙しく、地域の行事に参加したくても参加できない状況をどう改善していくか、などの課題が出された。



これらの課題に対して提言者から、①「連携」というキーワードはいつも聞いている言葉だが、これからの指導者には新たな取組をするくらいの気持ちで向き合うことが必要、②子どもたちは見守られているという感覚、安心感があれば、困ったときも頑張れる。かつての「名付け親」、「取りあげ親」などの「仮り親」風習に見られるように、子育てや育成活動に関心や係わりを醸成する環境づくりが重要、③子どもたちが参加したくなるような一層魅力ある活動内容や運営の工夫が必要、などの提言があった。

その後、コーディネーターから会場の参加者に質問があり、参加者は色紙で意思表示し、意見交流に参加した。(YES:青、NO:赤)

Q1:子どもの教育は、家庭(青)と地域・学校(赤)のどちらが大事か? → 大半が青

Q2:学校の負担は以前よりも増えたか? → 会場全員が青

Q3:子どもの育成に地域の教育力は十分に発揮されているか? → 半々、やや赤が多い

最後に、提言者から、今子どもたちに必要なことは、①少し不便で規制はあるが、温かく見守られている空間があること、②子どもの理想・モデルは親であり、親教育が重要であることなど、これからの効果的な「連携」の在り方を示唆するまとめをいただき、懇話会を締めくくった。